■生業の継続による景観の維持

■分かりやすい個性の発信
　キャッチコピーを考える　「日本茶のふるさと」など。

■感動・共感の場の提供
茶園が見える母屋の部屋や茶工場を改装・利用した
１　宇治茶の歴史を知る講座や、宇治茶を知る講座を定期的に開催。（宇治茶市民大学）
２　参加者が発表者となることができるようなワークショップの開催。
　グループで宇治茶の茶摘み歌など専門家の指導のもと民俗事例を調べるなどテーマをもうけておこなう。
３　最終的には、お茶ナビの成果などとも合わせて良質な「宇治茶本」を出版する。

これらの事業を運営するときに、すべて自主性に任せるといって、ボランテイアに頼りすぎると継続が困難になると思います。
軽視されがちな人件費や交通費を中心に補助を出すべきところは出すか、事業を行う会費で資金を集めて支弁されるような NPO 活動を参考にした指導も必要かと。
もしくは、静岡がお茶で今年取りましたが、サントリーの地域文化研究助成など企業や公益団体の公募助成を利用することも考え指導すべきでしょう。
http://www.suntory.co.jp/sfnd/research/index.html
運営主体となる組織の仕組みづくりを最初にしっかりとつくっておくことが成功のカギになるものと思います。

　橋本